



巻頭特集 沖縄県内初 整形外科分野におけるPRP療法での治療開始
 医局便り ゴルフしませんか？（整形外科 医長 比嘉清志郎）
 特集2 2019年度 第2回 八重瀬会研究発表会
 LEADER'S VOICE 内視鏡センター 副主任 玉城大樹

2019
 9月

広報 vol.245

「正確な診断」「適切な治療」「良質な対応」

医療法人 八重瀬会
同仁病院

創立100周年 これからも地域と共に



沖縄県内初

整形外科分野における再生医療外来を開始

県内初の整形外科分野への導入
 当院では、令和元年11月下旬より、沖縄県内では初となる整形外科分野におけるPRP（多血小板血漿）療法での治療を開始いたします。

PRP療法とは、国内では歯科口腔外科や形成外科分野での使用に始まり、近年は整形外科の様々な分野でも臨床使用の報告があり、スポーツ障害などに対して低侵襲な治療かつ早期回復などの臨床成績の報告もあることから、今後の発展が期待されている再生医療です。

再生医療とは
 再生医療は、誰もが生まれながらにして持っている『自然治療力』を利用した治療法です。当院が開始するPRP療法は、血液中に含まれる血小板の成長因子が持つ組織修復能力を利用して、治療を目指します。

また、この治療法は患者さんご自身の血液を利用するため安全性が高く、整形外科の分野でもスポーツ選手のケガや肘や膝の関節の痛みの治療などで使われています。

もともとは皮膚科の難治性皮膚潰瘍や褥瘡（床ずれ）、火傷糖尿病の人の壊疽、歯科の歯槽骨や歯肉の再生促進に使われてきたPRP治療法ですが、海外では20年ほど前から、サッカー選手やメジャーリーガー、プロゴルファーのケガの治療など使われ、日本でも、それに数年遅れて整形外科分野でスポーツなどによる肘や膝の痛み、腱や筋肉の損傷などで、ステロイド剤を使わない新しい治療法として注目されています。▼次項へ





沖縄県内初
整形外科分野における
再生医療外来を開始

PRP・APS療法について

PRP・APSとは

前述の通り、私達の血液の中には、止血作用とともに、成長因子を放出して損傷部分を修復する働きを持つ『血小板』という成分があります。

この血小板を高濃度に凝縮し活性化させたものが、PRP (Platelet-Rich Plasma = 多血小板血漿) です。

PRPにはたくさんの成長因子が含まれていて、細胞の成長を促進する力がありますが、このPRPに特別なキットを使うと、炎症や軟骨分解を抑制するPRP抽出液、つまり自己タンパク質成分である、APS (Autologous Protein Solution) が抽出できます。

APSはPRPよりも強力に炎症を抑える力、人の本来持っている治癒能力や組織修復能力・再生能力を最大限に引き出すことが示唆されています。

この療法は現在海外の臨床試験で有効性が検討されている最中ですが、傷んだ関節軟骨や組織などの炎症や痛みを抑え、関節軟骨の破壊を緩やかにし、関節内の環境をより正常な状態になるように促すと考えられています。

治療について

患者さんご自身の血液から作製したPRPを患部に注射する治療です。

PRP作製は、医療機器として治療に使用するための安全性が厚生労働省より認められた医療機器を使用します。

治療効果や効果の持続期間に個人差はありますが、患者さんご自身の血液を用いるため、免疫反応の起きる可能性は極めて低いと考えられます。

また、PRP療法での治療は、採血と注射のみで終わるため日帰りです。その上、原則として麻酔を使わないため、患者さんの身体への負担も少なくて済みます。

但し、このPRP療法は、現在のところ保険診療としては認められておらず、自由診療で行われています。

また、患者さんご自身の血液を使うことから、比較的安全性の高い再生医療と言えますが、2014年に施行された再生医療等の安全性確保等に関する法律の規制の枠組みに組み込まれ、再生医療を行うには実施施設(病院)は厚生労働省に届け出が義務付けられ、一定基準の安全性の確保が行われています。



お問い合わせ

■ PRP療法は**保険の対象外**です。費用については企画戦略部までお問い合わせ下さい。

■ 上記『対象となる主な疾患』以外はお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先：医療法人 八重瀬会 同仁病院（企画戦略部）TEL 098-876-2212

教育講演会を開催

- ◇開催日 令和元年7月22日(月)
 ◇場所 同仁病院内 ティーダホール
 ◇演題 「腎臓について」

講師 江田はるか 先生(内科)
 座長 池村富士夫 先生(外科)



◆内科の江田先生より『腎臓について』の講演会が開催されました。

誰もが知っている臓器・腎臓ですが、腎臓の解剖的アプローチから機能、腎臓の病態を丁寧に解説され、とても興味深い内容でした。

なかでも腎臓の機能面については、尿の精製・排泄、電解質と水分調整、ホルモン分泌と体液の恒常性を保つことの機能が備わっている臓器である為、非常に重要な役割をもっている事が再認識出来ました。その腎臓が病気になるると身体の均衡が保てなくなり、身体がいたるところに影響を及ぼしていく事を改めて理解できて、大変勉強になりました。

今後の業務に生かしていきたいと思いました。

【検査室 新里愛文】

医療機器安全講習会を開催



8月29日(木)、テルモ株式会社様のご協力のもと、医療安全講習の一環として『医療機器安全講習会』が開催されました。

◆今回シリンジポンプが中心の講演でしたが、アクションメントなどを引き起こす事例を学び、今まで意識していなかった点に注意を向けられるようになりました。特にシリンジ内に低温の液体を入れた場合のプラスチックの脆弱性には驚きました。これからも知識を積み重ねて、今後の業務に活かしていきたいです。

【臨床工学技士室 具志堅 靖】

摂食・嚥下障害の

介助支援について 講習会を開催

- ◇開催日 令和元年9月10日(火)
 ◇場所 やえせAG
 ◇講師 ST眞喜屋佳恵/照屋詩子/國吉光太

◆今回の講習会で、日本人に多い死亡原因の一つ、肺炎の死亡率が3位から5位になったと聞きました。
 1位：癌 2位：心疾患(心臓) 3位：脳血管疾患
 4位：老衰だそうです。肺炎に対する知識・意識が高まり、予防を重視し、言語聴覚士、看護師、デイケア職員等による働きかけ(指導、アプローチ)が大きな要因になり、結果に繋がっているのではないかと感じました。

保育園や学校でも口腔体操(パタカラ体操)を行い、風邪やインフルエンザにかかる子が少なくなったと聞きました。

講習会では「食べる仕組み」「嚥下障害」「嚥下体操」などスクリーンに映し出し、その後、実技があり、とてもわかりやすかったです。私達は今まで嚥下体操をデイサービスのレクの時間、昼食前に行っていましたが、口腔体操の時間が短かったと反省しています。又、食事を摂る時の首・顎の角度もとても重要だとわかりました。

これからも利用者お一人お一人の健康に貢献できたいなと考えています。口腔体操の時間や食事時の車椅子の角度をその人に合った形に工夫・調整して行きたいと思います。

【デイサービス 美ら園 我喜屋富士子】





『ゴルフしませんか？』



整形外科 医長 比嘉 清志郎

今回は私のたくさんある趣味の中から『ゴルフ』についてお話したいと思います。

2004年に琉球大学を卒業して、当時、豊見城市の真玉橋にあった沖縄協同病院に入職し、2年間の初期研修を終え2006年に整形外科の道を選びました。

そのボスであった上原先生はゴルフが大好きなのですが「比嘉先生これからの時代、ゴルフは必須だよ。ゴルフが出来ないと手術も上手くならない！それに周りの整形外科の先生達とのコミュニケーションにも必要だよ！」と旨いこと誘われて始める事となり、10万円くらいするアイアンのセットを勧められるまま購入して練習場に通う事になるのですが、止まっているゴルフボールがなかなか打てないのです。クラブの握り方やフォームも全然知らず、「ゴルフってつまらないなあ」と思い始めていました。

ちょうどその頃にボス(上原先生)が「比嘉先生、レッスンプロの指導を受けた方がいいね」とアドバイスしてくれたので、よく通っている波の上レンジのゴルフ教室に入門しました。基礎から習い、あきらめずに続けると、徐々に上達していると自分でも感じ始め、どんどん楽しくなり、ちょっとした空き時間にも練習をするくらいのめり込んでいきました。

まだまだクリーンヒットは少ないものの、ある程度、前に転がせる状態になった頃ショートコースでのレッスンがありました。

コースを回った時の楽しさ！これは実際コースでプレーした人にしか味わえないと思いますが、練習場と違い毎回ボールの状況は変わります。傾斜があったり、バンカーがあったり。更には後ろの組が詰まってきた状態で、もたつくとプレッシャーで焦りますが、そんな中で出す「ナイスショット」の感触がたまりませんでした。

慣れてくるとロングコースに出るようになりました。

スコアが悪くても、同伴者の「ナイスショット」は見ていると気持ちいいですし、沖縄のコースは周りが海で囲まれている事もあり、芝のグリーンと海のコバルトブルーのコントラストのある景色にも癒されます。

ゴルフを始めて13年が経ちますが、調子が良いと80台で回れるようになり（悪いと100オーバーしますが(笑)）、時々ですがコンペでも優勝できるようになりました。

これからももちろん続けていきたいと思っておりますし、11月の200回記念コンペでも優勝を目指します！

ゴルフに興味のある方は、同仁病院コンペに参加する事を目標に、練習を始めてみては如何でしょうか。

第2回 八重瀬会研究発表会



開催日：令和元年8月20日(火)
場 所：同仁病院内 ティーダホール
座 長：粟國克己 先生(内科)

- ・A病棟 吳屋梨絵
「申し送り方法の見直し～有効的な情報共有の方法～」
- ・医事課 柿山英理子
「診療報酬(査定報告)」
- ・HCU 伊佐常幸
「気道分泌物回収困難な患者に肺内パーカッションベンチレーターを使用した症例～人口呼吸器管理の患者さんを通して～」

良い方法を検討していき、それが他病棟でも活用できるものにしていきたいと思っています。

【A病棟 末吉むつみ】

◆医事課の発表は、医事課長を中心にデータや内容を吟味し、チームで作りに上げた。

院長の総括にて厳しい意見もいただき、更に良いものに向上させていきたい。

他職種の発表では専門用語など初めて耳にする言葉も多かったが、各部署とも写真やグラフ等を用いてわかりやすかった。

研究発表会に参加する事で他職種の知識や業務内容が少しでも吸収できて良かった。

今後継続して参加していきたい。

【医事課 山崎靖大】

部署や専門の枠組みを越え、より質の高い医療・介護を提供するために、毎年度4回開催している八重瀬会研究発表会の今年度第2回を開催しました。

◆A病棟の同じチームとして、ワークシート・申し送りの改善に取り組みました。申し送りの時間が短縮される事で、患者さんと関わる時間が増えナースコール対応への改善にも繋がりました。朝一番に手術を控える患者さんの話を聞く余裕ができ、不安や体調管理を行う事が出来るようになっていきます。これからも、ワークシートの活用・申し送りの改善にチームで取り組み、より

◆HCUは前回の発表から約半年後の発表だった為、幾分時間に追われる中の研究となりました。今後の看護実践に繋がっていきける結果が得られ、予想外の良い効果を生み出す事にもなりました。総評では、今後の研究に活かせるアドバイスを頂き感謝しています。

他部署の研究も多忙な業務の中で進めてきたと思います。患者さんやご家族により良い医療を提供する為には、その背景にある経営基盤の更なる安定化や職員の満足度向上が重要かつ必要不可欠な事だと改めて実感する内容でした。

今後もこの研究発表会が職員一人一人の成長する糧になればと思います。

【HCU 看護師長 松田直喜】

TOPICS

今年も敬老フェスタを開催

令和元年9月18日(水)、浦添市老人福祉センターにおいて、同センターと医療法人八重瀬会が主催となり『敬老フェスタ』を開催しました。

同仁病院からは、内科医長の田寺先生による「認知症について」の講話を行いました。

また、人気の骨密度測定や保健栄養指導、栄養教室、運動指導、認知症予防体操、頸動脈エコーなど内容も盛りだくさんで、今年は来場者125名と多くの市民の方が参加されました。

参加された方からは「去年よりも良くなっている！」という声や「認知症を理解することが出来た。今のうち予防しないといけないね。」など多くの声が寄せられ、皆さん笑顔で帰っていかれました。

来年も開催を予定していますので、浦添市民の皆さん、是非ご参加ください。

【地域包括支援センター「仁」 池間大輔】





内視鏡センター 副主任
玉城 大樹

密かな習慣、そして責任

みなさんこんにちは。

今回、何を書こうかと色々悩みましたが「私の知られざる密かな習慣」からお話したいと思います。

周囲にはあまり言っていませんが、実は約18年前から献血を行っています。その事だけでも、「まさか大樹が〜？」と意外に思う方もいらっしゃるんじゃないでしょうか(笑)。

令和元年7月に「献血回数150回」の記念回数に到達しました。

献血をするきっかけは、看護学生時代です。学校に献血車が来て、同級生みんなと一緒にしようと盛り上がり、献血する事になりました。それが人生初の献血でしたが、妙なきっかけを作る事にもなっていました。献血をする前に問診票に記入しますが、当時21歳の私、それまで家族から血液型はO型と聞かされ、何の疑いもなくO型だという認識で過ごしていました。

日本人は外国人よりも血液型占いを信じる傾向が強いそうで、私も血液型によって性格に違いがあると信じていました。周りに私はO型である事を話すと、血液型占い通りの「O型性格」だったようで、みな納得していました。

その日も当然、問診票へ「血液型O型」と記入しました。検査結果が出て、献血センターの看護師さんから一言。

「玉城さん、あなた血液型AB型ですよ」・・・。

一瞬、頭が真っ白になりました。「ガ〜ン！」

21年間O型として生きてきて、世間一般に言われているO型性格と一致する部分が多いと、私自身も疑うこと無く信じていた為、凄い衝撃でした。「私はO型です。何かの間違ひでは？」看護師さんに聞き返しても結果はAB型・・・。

動揺を隠しきれないまま初めての献血を終えました。直後、周囲は面白半分で盛り上がっていましたが、私は笑えず、一番気になったのは「両親の子ではないのか?」「両親の血液型から生まれない血液型だったら?」など、その時点で両親の血液型を把握していなかった私は不安で一杯になりました。

帰宅後すぐに「お母さん、俺の血液型分かる?」と質問しました。

「あなたはO型さ。何よ今更?」と母はサラッと答えました。それを聞いた私は、悲劇の主人公にでもなったかのように「俺の血液型はAB型だよ!今日献血で調べたらそう言われた!」と強い口調で母に詰め寄りました。それに対しての母「そうなの?知らなかったさ。ハハハ!」と、はぐらかすように笑い他人事のような軽い言葉。

真剣に考え、悩み、意を決して聞いたのに、なんとも言えない母との温度差。冷静になって話を聞くと、父はA型、母はB型で、私は真正正銘『玉城家の息子』である事が確認できホッとしました。

生後すぐ血液型を調べた為に不確実だったのか、それとも母が21年間ずっと勘違いしていたのか分かりませんが、両親の子に間違いはなかったようです。それにしてもあの時、母の返答と態度の軽さには啞然、さすがB型!良く言えばマイペースで個性的で楽天的。。。とはいえ血液型占いに科学的根拠はない様で、AB型だと知った後は、私の性格はやはりAB型タイプ、そう感じています。いい加減ですよ。結局、血液型占いなんでいうのは、自分の中で合っている様な部分だけを見つめていけば良い、過剰に信じ込んだり相手に押し付けたりせず、会話の軽い一つのネタとして楽しむ位が良いんじゃないでしょうか。

でも思います。

自分の体の事、医療関係者の一言、いかに大きく、その人の人生を左右しかねない重みがある事を。私自身、医療人として、セクシヨンのリーダーとして日常過ごしていますが、私の一言、言動、その影響の大きさを自覚し、慎重に正確に業務に当たらねばと振り返りながら戒める毎日です。

因みに、日本人のAB型の割合は約9%だそうです。これからも貴重なAB型の血液を献血し社会貢献できるよう健康に充分気を付けていきたいと思ひます。献血にまつわるエピソードはまだありますが、また次の機会にお話しします。

みなさんの近くに献血車が来た際にはぜひ献血のご協力をお願いいたします。

売店移転のお知らせ

売店HOWが装いも新たに、『国道側出入り口』から『駐車場側出入り口』向かいへ移転しました。是非お立ち寄り下さい！



<営業時間> ※水曜・祝日 休み
 ・平日/土曜 8:00~17:30
 ・日曜 8:00~13:00

<販売物>
 ・食料品 (お弁当、おにぎり、パン、
 カップめん、お菓子 等)
 ・ペットボトル飲料 (ジュース、お茶 等)
 ・日用品 ・雑誌…等



売店入り口付近は車両の通り道となりますので
 ご来店の際は十分お気を付けてください。

TEL 098-917-2127



大好評
 放送中

て〜げ〜
 ドクターK

FMLレキオ (80.6MHz)
 毎月 第1木曜日
 17:00~18:00 ON AIR

10月3日OAの、て〜げ〜ドクターKでは整形外科初代後期研修医の小林先生が沖縄での6か月間の思い出をざっくばらんに語ってくれています。台風13号が沖縄に迫りくる中、翌日には東日本整形災害外科学会での発表を控えているという極限状態での収録となりました。2011年のあの日、小林先生は秋田で、比嘉先生は仙台で、山内先生は東京で目の当たりにしたそれぞれの震災体験と、日頃から災害に備えておくことの大切さを強調されています。収録後には人生初のセミエビに大興奮の小林先生でした。



第199回 同仁病院ゴルフコンペ 結果報告

日時：令和元年9月18日 7:21スタート
 場所：ジアッタテラスゴルフ

優勝 比嘉清志郎 (整形外科医長)

久しぶりにコンペ優勝しました。前半のスコアは49とトータルで100切り出来るかどうか微妙なラインでしたが、体も温まった後半、出だし2連続バーディーを取る事ができ、大叩きをしないように慎重にプレー、最終ホールもバーディーを奪い、後半40とハーフ自己ベストを出しました。風はありましたが曇り空で暑すぎず、またメンバーにも恵まれ適度な緊張感を保ちつつプレーできた事に感謝しています。ハンディが減り、優勝しづらくなりますが、練習を怠らず頑張りたいと思います。

コメント

2位 西江昂平 (臨床工学技士)
 3位 玉城大樹 (内視鏡センター 副主任)

<ドラコン> <ニアピン>
 No. 9 鈴木英子 No. 4 西江昂平
 No. 18 山入端可代美 No. 16 桃原 修



▲心地よい朝日を浴びながらのスタート

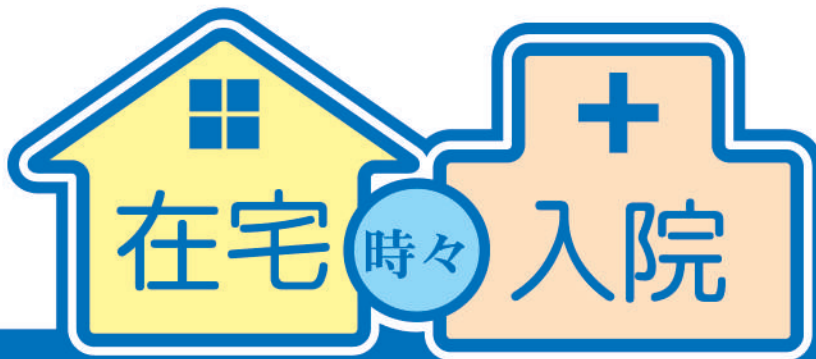


▲久々の優勝で引き締まった笑顔の比嘉先生



▲惜しくも2位となったがこちらも笑顔の西江氏

ご存知
ですか？



レスパイト入院（介護家族支援短期入院）

レスパイト
入院とは？

在宅療養されている患者さんのご家族を支えることを目的とした入院。様々な事情で在宅生活が一時的に困難となった場合に入院していただくことを「レスパイト入院」といいます。

主 な
利用条件

- 退院後、ご自宅又は介護施設に帰る方がご利用できます。
 - 褥瘡処置、たん吸引、麻薬の管理、胃ろう、気管切開、在宅酸素など医療行為のある方もご利用できます。
 - 1回の入院期間は、14日間までです。
 - 退院から3カ月の期間を空けることで、何度でもご利用できます。
 - 基本的に一般検査は行いません。
 - 入院の際は、お薬を持参してください。
 - 患者さんの状態によっては、入院期間を短縮する場合があります。
 - 医療保険の適応となります。
- ★その他、詳細につきましてはお問合せ下さい。

お問合せ

同仁病院 地域医療連携室 受付 9:00~17:00
休診日 水曜日、日曜日（午後）、祝祭日
TEL 098-870-5375 / FAX 098-874-7033

嚥下外来の受付しています。

「最近ムセる事が多くなった」「飲み込むときに違和感を感じる」「食欲もなくなってきた」
…気になるはじめたら、当院の嚥下外来までお気軽にご相談下さい！

一般だけでなく施設利用者の嚥下機能評価や
通院による嚥下リハビリなどにも対応します！

受付：同仁病院 地域医療連携室
TEL 098-870-5375 / FAX 098-874-7033

発行者



医療法人八重瀬会 同仁病院
企画室 広報誌制作チーム

〒901-2133 沖縄県浦添市城間1-37-12
TEL 098-876-2212 FAX 098-876-4209



■編集後記

令和元年5月に入职し企画室に配属された伊波と申します！
企画室での仕事は、初めての事も多く右も左もわからない状況ですが、先輩方からの指導を受け日々奮闘中です。
この9月号からは、広報誌にも携わることになりました。
これからよろしくお願いたします。 [伊]

f 八重瀬会 同仁病院
facebookページ

